

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 9 日現在

機関番号：33601

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530491

研究課題名 (和文) シリコンバレーの変容と地域イノベーションモデルの再構築

研究課題名 (英文) The Change of the Silicon Valley Industry and the Renewal of the Regional Innovation Model

研究代表者

京谷 栄二 (KYOTANI EIJI)

長野大学・環境ツーリズム学部・教授

研究者番号：90195397

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：地域、イノベーション、シリコンバレー、アジア、国際比較

## 1. 研究計画の概要

世界各地の経済発展モデルとなったシリコンバレーは 2000 年代に入ってから急速に衰退している。他方では台湾、中国、インドなどのアジアの IT 産業新興地域が勃興している。本研究は両者の現状と相互関係を、日本企業との関係も含めて分析する。なお社会学的調査研究の社会的意味を究明するためにパブリック社会学の国際的議論を検討する。

## 2. 研究の進捗状況

シリコンバレーの産業と雇用の状況について統計情報を分析し、2000 年以降の後退と他方での中国、インドとの取引の増大を確認した。シリコンバレーとアジアの IT 産業新興地域との関連を研究するために、台湾と中国の新興地域の調査を行った。台湾については、新竹、台南、台中のサイエンスパークの調査を行い、政府の産業振興策、大学との産学協同事業、アメリカからの経営者、技術者などの「頭脳還流」を分析した。

中国については、北京市中関村と上海市張江地区、および珠江デルタ地域のサイエンスパークの調査を行い、中国政府の IT 産業政策と産学協同事業について分析した。開放以前にコンピュータ技術革新が遅れていた中国では、国家主導の技術革新が推進され、中国科学院、北京大学、清華大学など国家関連の研究施設が重要な役割を果たし、今日でも大学発のベンチャー企業が IT 産業の中核を担っている。また中国 IT 産業と日本企業との関連を分析するためにキッセイコムテック社 (本社長野県松本市) の調査を行った。同社では単価削減のためにシステム制作の詳細設計以降の工程を上海市に設立した合弁企業において行っている。

インドの IT 産業については現地調査も含めて取り組みが遅れている。

また社会学における社会調査の意義を考察するためにパブリック社会学にかんする国際論争を検討した。社会学が本来対象とすべき人々の状況から研究が乖離する傾向に危機意識をもったマイケル・ブラウオイの提唱により注目を浴びたパブリック社会学であるが、しばしば「党派的で学問的性格を欠く」という批判がなされる。この点についてパブリック社会学の主張を詳細に検討するとともに、日本の社会学が取り組むべき課題を整理した。

## 3. 現在までの達成度

②おむね順調に進展している。

シリコンバレーとアジアの IT 産業新興地域、および日本の企業との関係については、インドの IT 産業を除いて調査が進み、シリコンバレーの停滞と、アジア地域の発展を後付け、日本企業との取引関係についても分析を進めることができた。しかしこれらの調査結果を整理して、全体をまとめる作業が残っている。他方、社会調査の意義を検討する基礎理論研究はほぼ整理された。全体的に 7、8 割の作業は終了した。

## 4. 今後の研究の推進方策

本年度はシリコンバレー、アジアの IT 産業新興地域、日本企業にかんする補足調査を行い相互の関係の分析を進め全体をまとめる。またこれらの動向の基盤にあるグローバルズムに関する研究を整理する。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

京谷栄二 労働社会学者マイケル・ブラウ  
イの軌跡 日本労働社会学会年報第20号  
2009年 109-121 査読なし  
〔学会発表〕(計2件)

京谷栄二 労働社会学からパブリック・ソシ  
オロジーへ 日本社会学会第82回大会  
2009年10月11日 立教大学

京谷栄二 社会学のディシプリン再考—  
パブリック社会学をめぐる国際論争—  
日本学術会議社会学系シンポジウム 20  
11年1月30日 日本学術会議